



インターンシッププログラム実施!

12月の「みらいプロジェクト」の取組として第1学年普通科・文理科学科を対象に、12月21日(月)より4日間の日程で福知山市内の事業所等と連携してインターンシッププログラムを実施し、29名の生徒が参加しました。

今回のインターンシッププログラムでは、学習を将来の職業との関係で捉え、明確な目標を設定することで日常の学習意欲の喚起を図ること、実践的教育活動を通して将来の正しい勤労観及び職業観を育成するという2つのテーマを企画段階より想定し、準備を進めてきました。

参加生徒は、年末の多忙な時期にもかかわらず御協力をいただいた各事業所の方々の御厚意により本当に素晴らしい体験や講話を聞かせていただくことができました。生徒は自らの強い意志でこのプログラムに応募し、意欲的な姿勢でそれぞれの体験に参加しました。各生徒とも興味関心を抱く分野に対する理解を深め、将来の進路実現に向けてのイメージをより強固なものとすることもできました。各会場ともに参加した生徒たちの反応も上々で、大きな満足感を覚え、目標に向けて素晴らしいスタートを切ることができました。

今回の研修で学んだことを糧とし、今後の学習活動に対するモチベーションを高め、希望進路を是非実現して思います。

協力事業所名と参加人数

	事業所名	参加人数
1	天藤製薬株式会社	9名
2	市立福知山市民病院	11名
3	エスベック株式会社	3名
4	SECカーボン株式会社	4名
5	日本製紙クレシア株式会社	2名



福高は、あなたの「みらい」を応援します!

生徒感想文

福知山市民病院 1年 女子

私が5つの見学先で行きたいと思ったのは福知山市民病院でした。その理由は、薬剤師を目指していることもあって医療に興味があり、是非医療に携わっている先生方の話を聞いてみたいと思ったからです。

実際に内科医長さんにお世話になりお話を聞いて、医療現場の現状を知り、医療問題に対する社会の対応の遅さや、これから医療はどうあるべきかなどについてたくさんのことを考えさせられました。それと同時に、医療にかかわる仕事をして、人に喜んでもらえるようになりたいと思い、薬学を始めとする医療のことをもっと知ろうと思いました。

院内見学では、薬剤師さんのお話が聞けたり、普段は見られないような設備が見れたりして、病院で働く人の目線から見た病院がより身近なものになりました。

このプログラムで医療現場を見たり聞いたりしたことで、自分の将来に対する意識が高まり、自分の決めた進路に向かっていくための良い原動力になったと思います。医療の世界に入ろうと思ったら、さまざまな努力が必要だと思いますが、将来、人の役に立たたと実感し、仕事をしていてよかったと思えるような何かに出会えるように、今は勉強という形で努力していきたいと思っています。



天藤製薬株式会社 1年 女子



「会社とは何ですか。」そう問いかけられて私は少し戸惑った。そんなわかりきったことを聞くのかと。しかし、考えてみればどう説明してよいものかわからなかった。会社とは利益を追求する組織であり、社会の文化を変えるものであるということを学んだ。ヒト・モノ・カネ、この3つの要素が会社を運営する上で必要なものであることを学んだ。これでこれから私は会社とは何か自信を持って説明することができるだろう。

本題の痔であるが、私は痔について無知であり、恥ずべきことであると感じていた。しかし、痔の経験者は75パーセントもいることを知って驚いた。天藤製薬の方々は痔の苦痛を治す薬の開発に携わっていることに誇りを持っていると感じた。なぜなら、痔をまったく恥とは思っていなかったからである。私たちに説明しているその瞳(め)は人々の痛みを和らげ、快適に過ごすためのお手伝いをしていることに自信を持っている瞳だった。モノとは多くの人々のアイデア、お金、気持ちなどが相互に働いて創造されているのだということを知った。私がこのインターンシッププログラムで1番学んだことは『モノ』を作る大変さと、『モノ』の大切さだ。1つのものには多くの時間と、思い、苦労が詰まっていると気付かされた。

天藤製薬。それは痔に苦しむ人々をより快適に、用途に合わせてより早く治すことに力を尽くす組織であると思った。これからあの有名なCMが流れれば、私はそのたびにもの大切さを思い出すだろう。あのCMを見る瞳(め)がガラリと変わりそうである。

